

学校統合

統合に係る計画の位置付けについて

吉野 修
(黎明21)

問 本市では、平成20年11月に行田市公立学校再編成計画を策定したが、いまだに実現していない。その要因は、再編成計画が行田市教育大綱や第5次行田市総合振興計画に位置付けられておらず、推進力に欠けていたからではないか。

答 また、組織として目標を定めて推進していく体制ができていなかったのではないか。

答 再編成計画においては進捗管理が徹底されていなかった。また、計画自体が市内全体のものでなく、当時、複式学級が見込まれていた学校に限定されていたことも一因であると考えている。

問 今後は、学校統合を市政の課題とし、平成33年度からの次期総合振興計画に掲げるべきではないか。

答 教育委員会としても、

ごみ処理問題

小針の土地を利用したごみ処理施設建設

石井 直彦
(発言と行動する会)

問 小針の土地を利用したごみ処理施設建設を計画すべきと考えるが、市長を始め執行部と考えるの相違があるので確認する。

問 疑惑と隠への建設候補地、鴻巣市安養寺の土地選定についてどのように考えているか。

答 新施設建設等検討委員会の答申に基づき、整備が示されたものである。

問 小針の土地の目的変更について市民等への説明はどのようなものか。

答 新施設稼働後に、市民の声を活かした土地利用を図る。

問 安養寺の土地の再調査は必要とされているか。

答 安養寺は基本条件に対して最も適合性が高いと判定し、選定された。

問 隠へいした郷地の方が明らかに建設コストは安い。市長の考えは。

答 総合的に考えて妥当であると考えている。

問 学校規模の適正化を進めることは重要な施策であると考えており、今年度の総合教育会議でも協議している。次期総合振興計画の策定に当たっては、教育環境の整備の一環として、学校規模、配置の適正化を位置付けることを検討していく。

また、前回の再編成計画を見直す際には、市内全体の再編成計画とし、短期、中期、長期の目標を設定し、その目標に沿った進行管理を行う必要があると認識している。

問 今年度の総合教育会議の協議内容は。

答 今年度1回目の総合教育会議は、7月27日に開催し、児童生徒数の将来推計やそれに基づく必要学校数の考え方を示し、協議した。

【その他の主な質問】

- 監査委員の倫理規範
- 小針公共用地の活用

まちづくり

JR行田駅前広場周辺整備計画

梁瀬 里司
(黎明21)

問 現在駅前ロータリーは通勤通学の送迎車で混雑しているが、駅前ロータリー整備の進捗状況は。

答 駅前ロータリー拡張工事は、今年度と来年度で完了する予定である。

問 駐輪場整備の進捗は。

答 水路上を有効活用した新たな駅前駐輪場の整備方針を今年度決定できるように検討している。

●クビアカツヤカミキリへの対策

問 クビアカツヤカミキリは、桜や果樹を枯らす外来生物だが、本市の被害状況等は。

答 8月末現在、樹木は桜98本を含め110本。成虫駆除数99匹、幼虫は28匹である。

問 今後の対策は。

答 10月に第2回対策協議会を開催し、委員の意見集約や防除活動に必要な事項を確認し、今後の効果的な対策を検討する。

●保育園での使用済み紙おむつ処理制度の創設

問 子育て支援策の一環として、東京都の9の区では、使用済み紙おむつを保育園で処理している。保護者、保育士の負担軽減のため、本市でも処理制度を導入すべきと考えるが、どうか。

答 保育園に入所している保護者の負担軽減や衛生面等の観点や費用負担も踏まえ、使用済み紙おむつの処理方法について、他の自治体の状況を調査研究していく。

【その他の主な質問】

- 学校ブロック塀の点検
- 熱中症対策
- 学力向上の取り組み

問 市長は当初、迷惑施設であるごみ処理施設が市内からなくなることが最大のメリットであると説明していたが、考えは変わらないか。

答 ごみ処理施設は資源循環型社会を形成する上で必要な施設である。

問 最大のメリットがなくなっても継続する根拠は何か。

答 環境負荷と負担の軽減が図られるほか、埼玉県のごみ処理広域化プロジェクトの区割りに三市が合致しているためである。

問 鴻巣市主導の事務手続により行田市の事務負担が大幅に軽減されると今でも考えているか。

答 三市で分担して対応している。

問 温浴施設は11億円以上と委員会で検討しているが上限金額はいくらか。

答 委員会を出ている11億円を超えてはならない。



JR 行田駅前広場